

お薬のめてますか？

神経内科 野崎 園子

■ 薬の嚥下障害

嚥下障害とは、さまざまな原因により、口からものをのみ込む機能が低下した状態のことを言います。

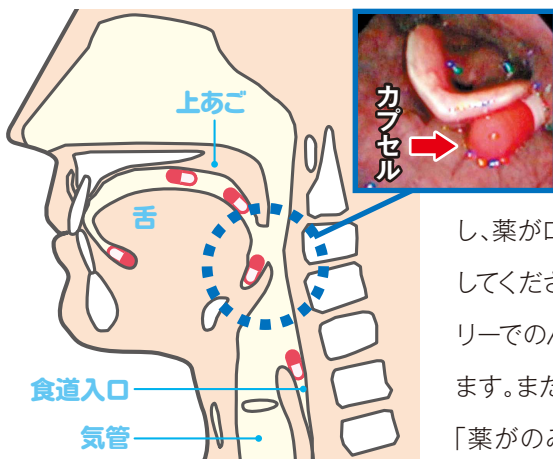
高齢化社会になり、嚥下障害でうまく食事が食べられない、誤嚥性肺炎を繰り返すようになったといわれる患者さんが増えてきました。食事の嚥下障害については、近年、多くの医療職が患者さんにかかわって、少しでもいい食生活をしていただけるようサポートし、また、誤嚥性肺炎を起こしにくくする医療的ケアも行われるようになりました。

一方、お薬をのむということも同じように嚥下障害の影響を受けます。医療機関に通院されている方の中には多くの薬をのんでおられ、薬がのみ込みにくいと感じている方は決して少なくありません。中には、咳をした時に薬が口から飛び出してきたり、よだれとともに明らかに薬と思われる色の唾液が出てきたり、口を開けるとお薬が発見されたりという経験がある方もいらっしゃるかもしれません。

内服薬は、口から確実に胃や腸に送られて初めて、その薬の効果を期待することができます。薬の嚥下障害の中で特に問題となるのは、薬が口の中やのどに残ったまま、何時間ものみ込まれずに残ってしまうことで(残薬)、せっかく処方された薬が適切な時間帯に身体の中に取り込まれないという事態が起こってしまいます。



■ 薬がのみ込みにくいと感じたら



薬がよく残るところ

嚥下障害が重度な患者さんばかりでなく、普通食を食べておられる方や自立して薬をのんでおられる方でも、このような残薬や薬ののみ込みにくさを感じておられることが分かってきました。内服薬をいかにうまくのみ込むかについては、患者さん・ご家族が試行錯誤しておられるのではないかと思います。も

し、薬が口やのどに残っている感じやのみ込みにくさを感じられたら、すぐに処方医に相談してください。薬の剤形(錠剤・カプセル・散剤など)を変更したり、簡易懸濁法*にしたり、ゼリーでのんだりすることでうまく対応できたり、薬の数を減らすことで解決する場合もあります。また、これらの症状をきっかけに、嚥下障害が発見されることもあります。

「薬がのみ込みにくいなんて相談してもいいの?」と思わず、医師にぜひご相談ください。患者さんの声で医療者が気付かされることもたくさんあります。

*簡易懸濁法: 薬を粉砕せず、お湯に溶かして投与方法(詳しくは薬剤師にご相談ください。)

関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」の中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2017-Mar.

No.40

乳がんの検査方法

乳腺外科 柄川 千代美

乳房にしこりなどができたり、検診で要精査となり乳腺外来を受診すると、まず乳房の視触診を行います。続いて行う基本的な検査はマンモグラフィ(乳房X線撮影)と超音波検査です。その後、必要に応じて生検(組織を採取して病理検査をすること)を行います。

マンモグラフィ



図1 MAMMOMAT Inspiration
PRIME Edition

乳房を圧迫して左右それぞれの乳房のX線撮影を行います。乳がんは乳腺の中に腫瘍(しこり)や石灰化として写し出されます。当院では2015年に新機種デジタルマンモグラフィ(図1)を導入しました。これにより、画像が鮮明になり、病変が見つかりやすくなったこと、圧迫の強さが軽減され患者さんの負担も軽くなったことなどのメリットがあります。また、生検装置が搭載され、超音波検査では見えずマンモグラフィのみで見つかる乳がんの診断も可能になりました。

超音波検査

乳房の皮膚からプローブ(図2)を当てて主に乳腺内の腫瘍を観察します。腫瘍の形や濃度などにより、良悪性の推定をします。20~30代の若い女性は乳腺の濃度が高いためマンモグラフィでは病変が見つかりにくいですが、超音波検査は若い女性にも適しています。乳がんを疑う場合には超音波ガイド下に針生検を行います。



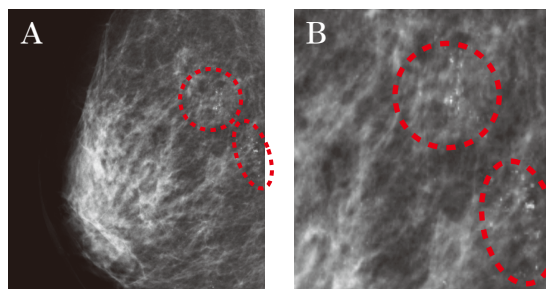
図2

生検

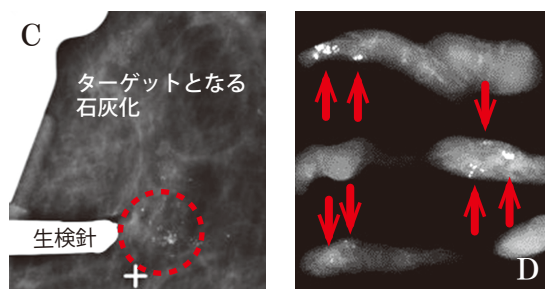
マンモグラフィ、超音波検査で乳がんやその他の悪性疾患を疑う場合にを行う検査です。無症状の早期の乳がんは、マンモグラフィ検診で見つかることが多くあります。このような乳がんは腫瘍とならずに超音波検査では見えにくく、マンモグラフィガイド下生検の対象になります。新機種のマンモグラフィでは、ターゲットの病変に正確に生検針を挿入して組織を採取できます。その組織をX線撮影することにより、病変が採取できたことを確認して病理組織診断を行います(図3)。こうして見つかる乳がんは非浸潤性乳管がんという早期乳がんのことが多く、手術により治療するので、再発する心配はほとんどありません。

乳がんは近年増加傾向にあります。早期発見と正確な診断が重要です。そのためには40歳以上の女性は乳がん検診を定期的に受診してください。検診で発見される無症状の乳がんは早期の可能性が高く、「要精査」と通知があっても怖がらず乳腺外来を受診してください。もちろん、しこりなどの症状があればすぐに乳腺外来を受診されることをおすすめします。

図3 マンモグラフィの石灰化と生検標本の撮影



A) 乳腺の石灰化病変と B) 拡大画像



C) マンモグラフィ下生検 D) 採取した標本